

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ミライ・シア

② 施設・事業所情報

名称：アスク港南中央保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：並木 洋美	定員（利用人数）： 84名	
所在地：神奈川県横浜市港南区日野1-7-9		
TEL：045-840-5311	ホームページ：nihonhoiku.co.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2008年4月		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社日本保育サービス		
職員数	常勤職員： 19名	非常勤職員 15名
専門職員	保育士 25名	
	看護師 1名	
	栄養士 1名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)

③理念・基本方針

<経営理念> 「子育て支援を通じて笑顔溢れる社会づくりに貢献します」
<グループ運営理念>①安全&安心を第一に保育・育成を実施します。 ②いつでも思い出に残る施設となるよう日々の保育を大切にします ③職員が楽しく働けることで子どもたちを笑顔にします ④地域とつながり支えあう施設として社会に貢献します ⑤常に時代が求める子育て支援を実施し続けます
<保育理念> 「未来を生きる力を培う」
<保育方針>・自ら伸びようとする力を支えます ・五感を養って感性を豊かにします
・後伸びする力を育みます

④ 施設・事業所の特徴的な取組

幼児クラスにおいては縦割りクラスの実施、年長児は小学校接続期を意識し、座り方の練習のため背もたれのない椅子を導入しました。また絵本ドリルを用いて共通の課題に挑戦し、小学校の授業体験に模した活動を取り入れました。
また、保育室から直接習い事に参加できるシステムを導入し、夕方の習い事を実施。習い事が終わってもまた保育に戻れるシステムにしました。
1歳児クラスから行なっているキャストレッスンはみんながとても喜んで参加するプログラムです。
職員は、他園で起きたアクシデントを自園に置き替え、防ぐ方法を考えたり、1年に1回は必ず「人権擁護のためのセルフチェックシート」を用いて全職員と考える研修機会を設けています。安心安全を第一に考えた保育環境づくりに注力しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年8月1日（契約日） ～ 令和6年3月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	12回（平成30年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

・子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう多彩なプログラムを導入しています
園では子ども一人ひとりを大切にした保育を実践し、子どもが遊びに主体的に関わるために環境面への配慮もおこなっています。職員は子どもの「やってみたい」という気持ちや探究心を大切に日々の保育に活かしたり、食育活動や学童保育との交流などをおこなっています。そのほかにも子どもたちの興味や関心の目を育てる多彩な学習プログラムを実施し、様々な経験の中から子どもの主体性を育てています。英語・体操・音楽は月2回1歳児から体験でき、各年齢に沿った取り組みがされています。その活動はプログラムの中で終わることなく、普段の生活の中で繰り返し遊んだり、子どもの成長を保護者に感じていただけるように運動会や発表会に取り入れることもしています。

・不適切な保育を未然に防ぐため教育と日常での確認を行うことを徹底しています
当園は、入職時に本部主導の元で適切なガイダンスと研修を実施しています。入職時の教育プログラムを通じて、職員に適切な保育方法に加え、個人情報取り扱いや児童虐待などの倫理規定類も合わせて研修しています。園内でも継続的に研修を実施し、保育知識の向上と最新情報の習得に努めています。職員研修では、自園や他園での不適切な事例を取り上げ、自分ごととして取り組み、資料にまとめ言語化して学びを共有しています。またチェックシート等をつかいながら児童養護に関する適切な行動となるよう振り返りを定期的に行っています。さらに、事務所内には声掛けや望ましい行動などの掲示があり、職員は日々の行動を確認しています。これらの活動を通じ、不適切保育を未然防止に取り組んでいます。

・職員間の良好なコミュニケーションを活かし、今後は更に園全体の保育の質の向上が期待されます

職員は互いの協力体制のもと業務を遂行しています。他クラスの子どもの活動や職員の状況を見て、職員同士が協力し援助し合いながら日々の保育業務をおこなっています。職員間のコミュニケーション・連携がよいことから、84名の定員を超えて今年度は104名の園児の受け入れも、大きなアクシデントもなく安心安全に保育園の運営ができていると考えられます。今後はチームワークを活かしながらも、職員一人ひとりが自信を持って保育に取り組み切磋琢磨しながら保育の質の向上を目指すと共に、他園との差別化やアスク港南中央保育園の特色を明確化していくことが期待されます。

・保育機能を地域に還元したり在園児と地域資源との交流したりする機会の再開が待たれます

当園では、地域の子育て世代を支えるために行政の許可の元、定員を超えて子どもたちを受け入れています。その中で、園における保育機能を充実させるような取り組みは、今回の第三者評価時の訪問調査でも確認できました。一方で、地域への保育機能の還元および在園児に対する地域資源との関わりに関しては、弱い面がありました。コロナ禍の状況も変わり、園としても課題認識しているところでもあります。在園の子どもたちの安心と安全を第一に考えつつ、生活面の充実に向けた地域との関係構築が待たれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育に関しては、自園の特徴や力を入れている部分をしっかり伝えることができたかと感じます。また、「今後期待される点」の中にある、定員を超えての保育に関し、

大きなアクシデントもなく運営できていることに評価いただき大変ありがたく、職員の励みにつながると感じました。今後は特色を大きく打ち出し差別化することで、より求められる保育園として運営していきたいと思いました。地域との交流などは引き続き自園の課題として受け止め努力してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり